

28TM-am04

Garlic の Sulphide 化合物

野原 稔弘¹, 宮下 裕幸¹, 吉満 齊¹, ○Mona EL-AASR², 池田 剛², 塚本 佐知子², 小野 政輝³, 中野 大輔⁴, 金城 順英⁴(¹崇城大薬, ²熊本大院薬, ³東海大農, ⁴福岡大薬)

[目的]

身近な野菜等に降圧成分探索を企図、生のタマネギ *Allium cepa* は、昔より高血圧、糖尿病に良いとされることより、先に検索を行って新規 sulphide 化合物を得た。さらに、本研究に関連して今回はニンニク *A. sativum* について sulphide 化合物の単離を行った。

[実験]

生の garlic (556 g)を細切し、それを acetone に1週間冷浸後濃縮し、Diaion にかき、水、MeOH で順次流し、MeOH で回収、それを silica gel カラムクロマト (CHCl₃-MeOH=100:1, *n*-hexane-acetone=4:1)に付し、一新規化合物 (14.2 mg) を得た。

[結果]

本化合物は、ニトロプルシド Na 試薬に陽性で、EI-MS にて *m/z* 113 に base peak を与え、これは C₆H₉S に相当する。¹H, ¹³C, 2D-NMR にて下記の構造を推定したがさらに検討を要する。

